

財っ子通信 第8号 文責 校長：三樹和幸

やりたいこと できることが増え

やらなければならないことが 確実に定着し みんなが伸びる学校

財光寺小学校

電話：54-2825

校長 Email:

zaikoji-k@hyugacity.jp

夕暮れが、随分早くなりました。雪不足に悩む北国のニュースが聞こえますが、街は早くもクリスマスの装いを見せ、年の終わりに向かって急いでいます。

学校は、2学期の成績をまとめる時期となってきました。期末のテスト類をたくさんもって帰ることでしょう。テストの出来不出来はあるでしょうが、子供たちのテストとの格闘の成果をご家庭でじっくり見て、励ましてください。



大人たちが伝えたいもの

本校では、学校経営の根幹としてキャリア教育を進めており、様々な魅力を持つ方々からのご協力を得て学習を進めています。その学習の中では、大人が本気で宝物の言葉を子供たちに投げかけます。

○仕事は、プロ意識が必要であり、自分の技術が錆びないように磨き続けることが大切だ。

○自分にとって苦手な人とも協力したり、理解しようとしなければ仕事の幅は広がらない。

○失敗が大切であり、失敗を分析して知恵に変えることを身に付けて欲しい。

○困ったときに逃げない人が格好いい。

○自分の想いを強く伝え、行動に移すことが大切である。

○日向の外を知ることも大切で、海外にも目を向けて欲しい。

など、私たち大人が聞いてもなるほどと思うことが沢山あります。

しかし、大切なのは聞いた後です。その後、今の自分は何をなすべきなのかと考えることがなければただの印象で終わってしまいます。

「ドライバーズ効果」というのがあります。運転手は道順を覚えるけれども、助手席の搭乗者は曖昧にしか覚えられないことに例えた効果です。つまり、当事者にならないと、覚えられないのです。沢山お話を聞いただけでは、助手席での話です。その中から、いかに自分でやってみるかで全然学びが違ってきます。運転席に座る子供が増えて欲しいと願っています。

財光寺小にオーラ

上記の社会人講師が本校を訪れた後、必ずおっしゃる言葉が「態度が素晴らしいですね。どの子も真剣で、一生懸命です」です。

先日6年生は、累計12名（矢野ホンダプリモ社長、内山建設会社社長、ハマグリ基石社長、天領うどん会長、富島高校校長、等々）の社会人講師から学んだのですが、その講師陣が称賛しきりでした。また、昨日11月25日は、橘太鼓響座に来てもらいましたが、「演者を乗せる子供たちでした。聞き方や乗り方が素晴らしくて、こちらが気持ちよくなりました。」とニコニコ顔でお礼を言われました。こういった財光寺小学校のよさを大切にしたいです。

先月、全国校長会で山口県に行き、萩の松下村塾の畳の上に上がらせて頂きました。世界遺産に登録されたものだけに感慨深かったです。そこに、吉田松陰が処刑される時両親を想って詠んだ辞世の句「親思う心にまさる親心けふのおとずれ何ときくらん」がありました。子供がどんなに親を想おうと、親が子供を慈しむ心になれないのは時代を超えても同じです。

その想いを大切にしながら、子供を背負って川を渡るのではなく、浅瀬を確認しながら手を引いて渡らせたり、見守ったりしながら、川(人生)の渡り方を学ばせることを大切にしたいと思っています。